



第414号 平成25年1月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 奥村正治

新年によせて

会長 奥村正治

新年明けましておめでとうございます。本年も昨年と同様、学校保健よろしく願い申し上げます。

昨年は、学校医会にとりまして、MR第Ⅲ期集団接種が、1校の取り止めもなく、京都市立全中学校で4年間行なえました事は会員の先生方の御努力の賜物です。何号か前の校医ニュースの表題でもありましたが、「ほんとうにありがとうございました」の一語につきます。おかげ様で、政令指定都市の中では、Ⅲ期接種率の4年間1位を続ける事が出来ました。(本当は、24年度の数字はまだ出ておりませんが、間違いないと確信いたしております。)昨年のトップニュースと思います。

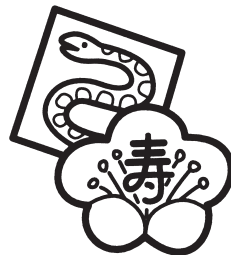
本年は特別の行事もなく、平穩無事を祈る1年でなかろうかと思えます。

1つお願いがあります。たぶん、次年度の検診には間に合うだろうと思いますが、学校検診等で、異常や、疑い例を発見した場合、開業の先生の受診の場合もあるでしょうが、病院受診が適当と思われる症例(ex:発育曲線の異常や、神経性食欲不振症、尿検査で蛋白尿+血尿例等)も、発見される場合があると思えます。この場合紹介状なしに200床以上の病院を受診すると、受診時に「保険外併用療養費」が初診療とは別に加算されます。そのため学校医会で紹介状(検診後情報提供書)のひな型を作ります

ので、それを元に診療情報提供書を校医の先生で書きいただきたいという事です。今年の4月からの検診に間に合う様にしたいと考えております。予告というわけでございませんが、校医ニュース、3or4月号で改めまして書式やお願い事をすると思いますのでよろしくお願い申し上げます。

例年ございますが、指定都市学校保健会は5月に隣の神戸で、又、全国の学校保健・学校医大会は、11月にちょっと遠いですが、秋田県で開催の予定でございます。御参加いただける先生は、御予定下さい。

毎年の事ではございますが、会員の皆様方の御叱咤、御協力なしでは会の運営はむずかしゅうございます。どうぞ本年も御指導をお願い申し上げ、新年の御挨拶にさせていただきます。



新 年 の 御 挨拶

新年、明けましておめでとうございます。

京都市学校医会の会員の先生方におかれましては、日頃から本市学校保健の充実・発展に多大の御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

とりわけ、今年度無事に終了いたしました、平成21年度から実施している中学校でのMR（麻しん・風しん）の集団予防接種については、先生方の多大なる御協力の下、接種率は、麻しん排除に必要な95%を各年度上回り、厚生労働省の調査でも政令市1位となるなど、大きな成果を上げることができました。この場をお借りし、皆様方に厚く御礼申し上げます。

また、例年この時期は、京都市立学校・幼稚園においても、インフルエンザや感染性胃腸炎等が大変

京都市教育委員会 教育長 生 田 義 久

流行しております。発生・まん延の防止に向け、各校園に対します御指導を、引き続きよろしく願いいたします。

本市では、「一人一人の子どもを徹底的に大切に」する教育理念の下、「生きる力」の根幹となる「健やかな体」の育成を学校教育の基本指針の一つとして、家庭・地域等と連携を図りながら、その推進に努めております。今年も、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を一層推進してまいりますので、先生方におかれましては、引き続きの御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、奥村会長を先頭に、貴会の今後ますますの御発展と会員の先生方の御健勝と御活躍を祈念申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。

新 年 の ご 挨拶

京都府耳鼻咽喉科専門医会会長 豊 田 弥 八 郎

皆様お元気に新しい年をお迎えのことと思います。衆議院総選挙も昨年末に終わり、今年は新たな決意のもとに日本を再生し、より暮らしやすく、子供たちにとってはより学びやすい環境がこの国に整っていくことを期待したいと思います。

昨年11月には私も近くの小学校の就学時検診に耳鼻咽喉科校医として参加しましたが、少子化傾向はなお続いていることを実感しました。ピーク時には200名を超える新入児童を迎えていた同じ小学校で今年受診した子供の数は27名でした。この子供たちが成長してやがて日本の社会を支え、同時に、その

子供たちの親の世代の老後を支えることになるかと思えばこの国の先行きに不安を覚えざるを得ませんでした。せめてこの子供たちがみな大きく豊かな知性と感性を持った大人に成長し、これまでの何人分もの力を蓄えて社会に貢献してくれることを願うほかありません。教育の果たす役割は大変大きいと思われれます。私たちも子供の健康管理の一翼を担いつつ学校教育に参加し、子供たちの大きく豊かな未来を創る手助けをしていきたいと思っております。

今年も皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

新年のご挨拶

京都府眼科医会会長 佐々本 研 二

新年あけましておめでとうございます。日本列島が地殻変動期にある中、日本という国も社会も大きな変革期の真っ只中にあることがひしひしと感じられる昨今ですが、子どもたちを取り巻く環境にも大きな変化がみられます。

以前も書きましたが、社会の中でITの流れが加速し、それが子どもたちの目に大きな影響を及ぼし始めています。ハンディタイプのゲーム機に熱中していつまでも止めない子どもたち、それを止めようとしなない親、止めることができない親、それだけではありません。スマートフォンを操作している親の手元を見て教えられもしないのに上手にスマートフォンを扱う幼児、それを見て喜ぶ親。パソコンを使って学習する小学生、勉強ならいいだろうとパソコンに向かわせる親。これから子どもたちが成長して社会人になっていく上でITに関連した知識や技能は不可欠でしょうが、子どもたちがIT機器に早い時期から触れることによって、以前よりかなり早期に近視になっているという現実があります。学校現場にどんどんIT関連機器が入ってきている現在、昔のようにテレビの見過ぎに注意しましょうというような単純なことでは済まされなくなってきました。小学校低学年から発症した近視は、成長とともに進行し、成人に達する頃には強度の近視になってしまいます。若い頃は眼鏡やコンタクトレンズで矯正すれば視力が出ますので大きな問題とはなりません、眼軸が伸び眼球が大きくなると網膜が薄くなり、網膜剥離を起こしやすくなります。視神経乳頭や黄斑部も脆弱となり、中年以降になると緑内障、さらには加齢黄斑変性も生じやすくなってきます。こうし

て小学生のときに発症した近視によってやがて中高年の失明者が増加するという事態が起こってくるのが危惧されます。子どもたちの教育に熱心になりあまり、彼らの将来に影を落とすようなことにならないことを祈っています。

話は変わりますが、小学校で全児童を対象に行われていた色覚検査が廃止されてから10年余りになります。色覚検査を受ける機会がなく自分自身が色覚異常であることを知らないまま進路を決めてしまった若者が、受験や就職に際して大きな壁に阻まれている例が出てきています。学校健診における色覚検査が差別につながるという一部の強硬な主張を容れて平成13年に色覚検査が廃止された結果です。色覚異常のために不当に差別され職業選択を制限されることは問題ですが、現実に関係や自衛隊では個人の自由よりも集団の安全が優先されなければなりませんから、制限があるのはやむを得ません。おそらくその場面に遭遇した当人もそのことはよく理解できると思います。それよりも、なぜそれまで検査を受けることができなかったのか、なぜそれを先に教えてくれなかったのか、という親や教師への恨みのほうが強いのではないのでしょうか。

子どもたちの健康を守り、同時にそれぞれの特質を見極めて本人の自覚を促すことも学校教育の現場で行われなければならない大切なことではないかと思っています。

本年もよろしくお願い致します。

第32回京都市小学生駅伝競走記録会に参加して

耳鼻咽喉科 鈴木 由一

京都市教育委員会 京都市小学校長会 京都市小学校スポーツ連盟 京都市小学校体育研究会 京都市学校医会主催，京都市小学校スポーツ連盟主管による上記記録会が平成24年12月2日日曜日に鴨川・出雲路橋・葵橋周回コースで行われました。当日，会場の鴨川河川敷に着くと比叡山や北山がうっすらと雪化粧をしておりました。

午前9時からの開会式に続き10時から夕方4時まで競技がありその後表彰式，閉会式が行われました。参加した小学生は京都市立小学校及び国立・私立小学校，民族学校に在籍する6年生の児童でその参加数は560チーム，（131校・約2700名）とのことでした。その他役員，学校関係者，保護者を加えると5000人近い人が参集していたことでしょう。

救護班としては東道伸二郎先生，私鈴木由一，養護の小原さかえ先生，前田博子先生の4人で担当しました。今年度は救護所を訪れた人数は4人で例年に比較して極端に少なかったように思いました。その詳細は以下の通りです。

男子	競技前にウォームアップ中転倒	左肘の擦過傷→処置
女子	競技後に過呼吸	安静→回復
女子	競技後に過呼吸	安静→回復
女子	競技後に腹痛	安静→回復

謹 賀 新 年

平成25年 元旦

会 長	奥 村 正 治
副 会 長	林 鐘 声
〃	竹 内 宏 一
専務理事	井 本 雅 美
常任理事	藤 田 克 寿

常任理事	東 道 伸二郎
〃	福 持 裕
〃	大久保 秀 夫
〃	杉 本 英 造
〃	山 内 英 子

京都府眼科学校医会理事	佐 野 貴 之
京都府耳鼻咽喉科学校医会理事	鈴 木 由 一